

<空の安全・安心を！ 整理解雇 4 要件を守れ！>

京都のつばさ 街頭宣伝用ニュース 第 11 号 2012. 7. 18

日本航空の不当解雇撤回をめざす京都支援共闘会議・発行

京都市中京区壬生仙念町 30-2 ラポール京都 5F 京都総評気付 075-801-2308 (第 13 回定例宣伝)



稲盛和夫名誉会長は不当解雇撤回を！
JAL 不当解雇撤回原告団は闘うぞ、京セウ哲学は空の不安だ



「私たちは一昨年大晦日に日本航空に解雇されたパイロットと客室乗務員 148 名です。不当な解雇は撤回せよ！と裁判で闘っています。ご支援よろしくをお願いします。」

We are 148 crew members, pilots and flight attendants of Japan Airlines, who were dismissed on New Year's Eve two years ago. We brought this case to court in order to reverse this unfair dismissal.

(We were dismissed due to age discrimination and sick-leave record in the past.)

Your kind understanding and support would be greatly appreciated. Thank you.

우리들은 지난해 12 월 31 일, 일본항공사에서 해고당한 파일럿과 객실승무원 148 명입니다. 부당한 해고에 대한 철회를 요청하는 재판을 걸고 투쟁하고 있습니다. 여러분께, 많은 지원을 부탁드립니다.

ベテラン客室乗務員 84 名も解雇 一方で、 710 名の新規雇用！

2010 年の大晦日に 165 名ものパイロットと客室乗務員を整理解雇した日本航空が、710 名もの客室乗務員を新規雇用しました。

整理解雇というのは精一杯の解雇回避努力をしてもやむを得ない場合のみ認められるものです。それは、「整理解雇の四要件」として最高裁判所の判例として今や法律と同等の厳格なものです。

さっそく大量新規採用するということは、解雇の必要がなかった、まともな労働者の権利を主張する労組つぶしが本当のねらいであったことを証明しています。ましてや新規採用できるときは、解雇され闘っている 71 名の客室乗務員を先に雇用すべきです。

「客室乗務員の新人訓練は 2 ヶ月かかるけど、私たちなら 5 日で済む」と原告団は語っています。一度に大量の新人が入ってくると安全運行にも不安が出ます。

みなさんの空の安全のためにも、解雇撤回闘争にご支援をよろしく！



皆さん！良識の声を！

稲盛和夫名誉会長の日本航空で、「JAL フィロソフィ」なる手帳を全機長に配布し、航空業界全体で今や空の安全は風前の灯に。「20 万円燃料費節約のため迂回せず台風突っ切り事件」も発生。良識の声を！

「利益なくして安全なし」の稲盛イズムが空の安全を脅かす

本年三月末の JAL 解雇事件東京地裁の判決は、整理解雇の人選基準である病欠と年齢基準は、安全運航に及ぼす影響はないとして、整理解雇を容認しています。会社更生中であろうとも、安全運航は第一です！

ベテラン乗務員の経験を全く無視した判決

病欠基準による解雇によって不安全问题は生じないとする判決

トラブル続きに大西会長から社員へ異例のメッセージ

現在 JAL では、短期間に尻もち事故やエンジン空中停止などの事故や、各職場で不安全事故が続発する深刻な事態になっています。病欠を解雇の理由とした問題で、「病気でも素直に申告して仕事を休みにくい」との職場の声があることは、会社も認めていることです。現に今年 1 月に機長が肋骨が折れたまま乗務し、帰着した時は車いすで搬送されたケースがありました。まさに休めない物言えぬ象徴的な例です。

整備の職場でも重大人身事故多発

整備の職場では重大人身事故や不安全事故が多発しています。指の切断を含めた指を切る事故が昨年 12 月から 3 件起きています。一昨年行われた 45 歳以上を対象とした希望退職で、大量のベテラン整備士がいなくなり、技術の伝承ができにくくなっていることや、労働条件低下やモチベーション低下がこうした事態を引き起こしていると考えます。子会社である整備会社（日東整）を潰し、そこに働く全労働者の仕事を奪ったこと等も決して無関係ではありません。



客室の職場でも「有意注意」が繰り返し出されますが……

離陸中、機内食の入ったカートが調理室から飛び出し、ビジネスクラスを越えエコノミークラスの座席に挟まって止まったケースがまた発生しました。昨年、CA が立ったまま着陸するという前代未聞の事例が 2 度起こりましたが、客室の職場でもこうした不安全事故が後を絶ちません。ベテランが大量にいなくなったことや、安全よりも利益優先の経営方針の下、行き過ぎたサービスで業務量が多くなっていることも要因の一つと考えられます。

行き過ぎた人員削減と、利益優先の経営姿勢に問題

破綻後、希望退職で多くのベテランが職場を去って行きました。また JAL グループで更生計画上の人員削減目標を 1300 人もオーバーしたにも関わらず、整理解雇を強行した結果、職場は人が足りない状況になっています。また、稲盛前会長の利益優先の教育が職場に浸透し、安全に対して物がいえない雰囲気になっています。

